

資料5-1

■北川村教育連絡協議会 意見交換会（キックオフ ワークショップ）

【テーマ】キックオフとしての意見交換

【日時】 令和3年4月28日（水）

【場所】 北川小中学校 多目的ホール

【参加者】 教育連絡協議会 参加者（保小中教職員）

【グループ構成】 知・徳・体 3グループに分かれて実施（1グループ10人程度）

【WSの趣旨】 これから、保育所・学校環境について語り合ってください前段として

現状のそれぞれの思いを、語り合ってください。

今後の本格的なワークショップにむけて、教職員の方々の意識、
思いの状況を把握する。

Step1 20分 ●情報提供

「学校をつくる」とは？ 担当：柳川

Step2 20分 ●その1「北川村のいいところ、再発見！」

各自、記入

- ・本日のスライドの感想
- ・これからの保育・教育にむけた夢
- ・北川村のこどもたちへの思い
- ・学校づくりにむけての課題
- ・これからの課題・不安

班内で語り合ってみよう！

班内で、それぞれ発表。

■4/28 北川村教育連絡協議会 意見交換まとめ

1. 子どもへの思い、大切にしたいこと、身につけたいチカラ

- 知 体 体 体 知 知 知 知 知 知
- ・向上心をもって、ねばり強く、生きていく力をつけたい。
- ・いろいろな体験を通して、主体的意欲的な子どもに育ててほしい。
- ・小さい時の経験。
- ・自分たちから積極的に取り組む姿勢
- ・自分の考えや意見に自信を持って発信できる子に育てていきたい。
- ・色々な事に興味を持ち、視野を広く持ってもらいたい。
- 知 (その裏にもう一枚)
- ・北川村の環境に満足するのではなく、外へ挑戦していく気持ちを持ってもらいたい。
- ・郷土を愛する気持ちを持っているだけでなく、広い世界で活躍できる子どもの育成が必要だと感じています。
- 知 (その裏にもう一枚)
- ・便利さの追求だけでなく、不便さの中での生活を感じてほしい。
- 知 ここから、良くしたいと考えてほしい。

1. 北川村らしい教育をめざして

- 徳 ・ どういう学校が北川村に合っているか、子どもたちが学びやすい環境をどう作っていくか
- 徳 ・ 小中一貫校でなければならぬのか。
- 徳 ・ 北川小は残し、中学校は近隣と統合しなければならぬ気がする。
- 徳 ・ ～何を大切にしたいのかをしっかりと考えておかないといけないと感じた。
- 知 ・ 子どもの人数が減っている現状でどのような学校づくりをしていくのか。
- 徳 ・ 児童、教職員、地域の意見のすり合わせ → 方向性どのように
- 体 ・ 学校建築でユニークなものがたくさんあったが、普通と異なる設計にするメリットって何があるのか？
- 徳 ・ もっと他の学校設備を見たり、どんな良い点マイナス点があったか知った上で、みんなで話し合えたらと思います。
- 知 ・ 北川村から一歩外に出た時に、自分が出しにくくなるのでは…。
- 徳 ・ 至民中、安居中の建築・教育上の課題に触れられていなかった。

2. 学校教育・運営のあり方、空間との関係

【小中一貫、異年齢交流・つながりについて】

- 知 知 体 知 徳 知 徳 知
- ・保育、小学校、中学校の子どもたちが、共に関わり合い、異年齢がつながり育ち合えるように。
- ・保小中が連携して活動できる、活用できる場所があれば、つながりのある教育がよりできると思いました。
- ・保育・小・中と同じエリアで過ごせたらいいと思う。
- 知 15年の成長の見守り、有益なことがたくさんあると思う。
- 徳 ・ ～ 小1～中3までが関わりあえる空間の取り方
- ・児童も生徒も学年学級を越えて交流できる教室・場所があるといい。閉鎖的でない。
- 徳 ・ 小中で空間の共有により、図書や教科の有効活用
- 知 ・ 他学年の関わりがふえそうなので、すごいいいなと思った。

【小中一貫における課題（運営・空間）】

- 知 ・ 小中一貫にした場合、チャイムは2回ずつなるようになるのか？
- 知 小中を一緒にすることによる支障はでてこないのか？
- 知 ・ 小・中の校舎を同じにすると、チャイムが2回流れるので、ややこしくはならないか。（授業時間が異なるため）
- 知 ・ 場所が整うだけでなく、時間のことも考えていかなくてはいけない。
- 知 ・ 保小中と発達段階が大きく異なる子どもたちが共有できる建物になるのか？
- 体 ・ 小中間の移動距離や連携

【さらに地域も交えて】

- ・保小中、地域が関わりありあえ、学び合える学校へ
徳 めざす子ども像のベクトルを合わせて学習（指導）
ハード面、ソフト面 一体化
- ・敬老会と文化祭を一つに
徳 校内の発表会には生徒の保護者しか来ないが、
敬老会（地域のイベント）と一緒にやると、保護者以外の人たちに
自分たちの成果を披露するよい場面になるし、モチベーションも上がる。

【教科教育環境の充実：教科センター方式】

- ・教科ごとの部屋は、教員としてありがたいし、生徒も気持ちのきりかえが
知 できる。教科の特性を生かした学習がしやすい。
- ・中学校の教科センター方式は、教科の特色も生かして魅力的。
知 教科委員も活躍できる。
- ・「教科の魅力でもてなす」 ここはすごく大事
徳
- ・教科センター方式や教科教室型は、面白いなと思いました。
体 （人数減少がどうなるか…）
- ・各教科の魅力を考え、意識した教育を行う。（教科センター方式etc）
徳

【北川村の特性：少人数・北川らしさ】

- ・～ 少人数の良さを生かした学校になればと思います。
徳
- ・少人数なので、全員を知っているので、お互いを認め高めあえる学校
徳
- ・地域の良さを生かし、ふるさとの温かさを感じながら育つ環境が
知 あればいいと思う。
- ・北川村にふさわしい北川のこどもたち合った特徴ある学校で
体 心も身体も成長してほしい。

【児童・生徒数の減少、人口減少、財源に対する懸念】

- ・人口減少をどうしていくのか。
知
- ・人口（子どもの数）が減少しているのに、大丈夫ですか？
知
- ・年間1～2人の出生で、大丈夫なのか？
体
- ・コロナパンデミックで国の財政は苦しいのに、この状況でだいじょうぶ？
知
- ・建てる費用は？
体
- ・子どもの人数が減っている現状でどのような学校づくりをしていくのか。
知
- ・これから人口が減少していくのに、
体 新しい学校を作って活用できていくのだろうか？
- ・子どもの人数が減っている中で、
体 紹介されたような学校ができるかどうか。（大規模な）

【これからの学び、新しい学び環境】

- 徳 ・子どもが主体性を育める環境をつくっていききたい。
(環境づくりは子どもたちも)
- 徳 ・子どもの個性、多様性が認められる空間
時間の使い方や教科のつながりなど画一的なものからの脱却
- 体 ・自由な発想、自由な空間、新しい学校は、今までと違う。
- 知 ・空間のデザインの仕事によって、学習スタイルが大きく変わることを
知りました。
- 体 ・建物一つで子どもたちの気持ちや考え方、行動も変化するということは、
素晴らしい。
- 徳 ・今までの環境とは違う環境で学ぶ(教える)ことで、
どのような学びが生み出せるか楽しみになった。
- 徳 ・ICTの活用が進んでいくからこそ、子どもたち同士のつながりや
本物に触れるという体験を大切にしていきたい。
- 徳 ・～ 建築の視点で考えられたハコモノに終わらせず、
魅力的な空間の創出は、必要。
その校に学校が成り得るのだから。
- 徳 ・～ できる環境づくり

【空間のつくり・しつらえ】

- 徳 ・丸い共有スペースが、とっても素敵でした。
- 知 ・場所を移動しなくても、教室の近くで話し合いができそうだなと感じた。
- 体 ・学校でも、地域の特色を生かしたいろいろな建物がある。
- 体 ・地域ごとに、様々な学校らしくない(よい意味で)デザインで
驚きました。でも、天井や校舎に特色があり、面白いなと思いました。
- 体 ・今どきのデザイン性あふれた設計の中にも、木の温かみを感じられた。

【防災】

- 知 ・子ども達が安心・安全に過ごせる所。特に防災面。
- 体 ・自然豊かな環境をいかして、のびのび成長してほしい。 安全・安心
- 体 ・子どもたちの安全や安心が考えられている。

【新しい学習環境、オープンスペースに対して】

- 知 ・オープンスペースが多くあったが、
防音性はどのように確保しているのか。
- 知 ・すごくオープン空間の学校が多いが、うるさいとか気にならないのか？
- 知 他のクラスとの関係は？
- 体 ・オープンスペースをつくることその他への影響。
- 徳 ・オープンスペースは、他学年の良い面も悪い面も目につきやすい。
- 知 ・オープンスクールのような個性に応じた教育のあり方があまり進まない。
- 徳 ・のびのびと学習はできそうだが、空間がありすぎて持て余しそう…。
- 徳 ・それなりの物も準備しないといけないのでは？
- 徳 ・丸い空間は落ち着かない。(個人的に)

【空間のつくり・しつらえへの具体的課題】

- 徳 ・土地の立地や条件の有効活用。
- 徳 ・学校を建てる間はプレファブ？
- 徳 ・教室の共有方法(制限・取り合い)
- 徳 ・体育館も新築するの？
- 徳 ・エアコンの冷暖房など

【防災】

- 体 ・北川村は地震後の津波は来ないと言われているが、そうは思えません。
(海岸から4 km、川もある。) 魚梁瀬ダムの崩壊も…。
新しい校舎で対応ができれば。

3. 学校づくりについて

- ・学校建築といっても様々な空間があり、使い手がどのように活用していききたいのか、どのような機能を求めているのか、しっかり伝える必要があると感じました。
- ・学校のデザインを子ども・教員・地域の方々の意見を取り入れながら考えることで地域や学校により愛着が持てると思った。
- ・北川村の子ども達が主体的に活動や学習ができる空間（建物）をいろいろ意見を出し合いながら考えていけたらと思う。
- ・スライドを見せて頂いて、様々な発想で、これまでの型にはまらない「学校をつくる」ことができると感じました。
- ・子どもや先生、地域を交えて作り上げていくことで、一体感も感じられ、身近な～
- ・「学校」とはこんな形という決まったものがなく、地域や子どもたちの様子に応じて自由に設計できるという事がわかった。
- ・みんなで考え、一つのものを作っていくことは、すばらしいと思った。
- ・いろいろな学校を紹介してもらって、夢があって良いと思った。

■北川村学校づくり 今後の検討項目（案） 4/28 北川村教育連絡協議会 意見交換を受けて

先日の意見交換内容から、課題点を洗い出し、
簡条書きのマークは以下のものを表します。

- 教育委員会として、学校や地域へ呼びかけるために、検討を要する項目
- ◎ 学校で、教育委員会とともに、連携して検討していくべき項目
- 地域の意見も取り入れて、学校運営を考えていくべき項目
- その運営・ソフトをうけて、検討すべき建築・空間・施設構成の検討項目

STEP1 検討していくための基礎を共有する（土台づくり）

【方針・理念をしっかりと共有し、運営案をつくるための問題提起とする】

- 1 ●もう一度、保小中一貫化の意義を確認・共有する。
(教育の趣旨たるところは、教育委員会から伝えつつ、ともに考えていくことが大切。)
- 2 ●教育理念として、小規模教育、複式学級の教育の強みを整理する。
(小規模・複式学級の特性を、多角的に捉え直す理念的な学びを教員内で行うべきか。)
(そして、実務的にどう展開させていけるかを、教育委員会と現場が一体となって考える。)
- 3 ●現況をいかした「北川ならではの教育」をつくるのが、「村づくり」の大切な施策として位置づけていることを確認・共有し、協力してもらえよう関係づくりが必要。
- 4 ●これからの学び、ICTを導入した学び、北川村ならではの学びの質の向上をめざし、教育のあり方について、教員にどんな状況を共有し、どんな課題をなげかけるか？

【具体的運営案づくりにむけて、特性を把握・共有する】

- 5 ◎北川のこどもたちの特性を、先生方はどう捉えておられるか？
(のばしていきたい特性、懸念される特性、支え育てていきたい特性…)
- 6 ◎北川村の環境（村の環境、教育環境、生活環境等）をどう捉えておられるか？
(村のよいところ、教育に生かしていきたいところ、懸念される場所…)
- 7 ●村の方針として、こういった内容を教育に生かしてほしいか、しっかり伝える。
(村が認識している特性、活動、キーマン、物品、行事等の村の資源の共有化の構築が大切。)

このあたり、しっかり語り合い、共有する。また、そこから教育を構築する。



STEP2 具体的な運営について大切にしたいことを、とりまとめる

【方針・理念をしっかりと共有し、運営案をつくるための問題提起とする】

- 8 ●教員の力量形成として、どんな教員の指導力向上を支えるか？
(求められる教員の資質を構築できる教育のあり方、学校運営、地域連携とは？)
(先導役である教育委員会内部、管理職での学びも大切かもしれない。)
(それを支える支援体制、大学との連携、人事等の課題を、高知の特性を含めどう考えるか？)
- これによって、アクティブラーニングのあり方、ICTを活用した教育、学習空間のあり方、地域連携のための施設のあり方、複合化のあり方が大きく決まる。
それが、学校空間を構築する特性にもつながる。

【方針・理念に重なって検討し、具体的内容を構築していく】

- 9 ◎保・小・中 一環の具体的運営
- 10 ◎どんなつながり方をつくるとよいか？
- 11 ◎逆に、どんな部分で分節をつくり、メリハリをつくるか？
(保、小、中、どんな場面で、どんなふうにつながりをつくるか？)
(教育・学び、生活、行事…、行いごとの適切な人数規模は？、全校でやるとよいことは？)
→ 具体的なイメージから、必要な空間条件を組み立てる。
- 12 ◎「北川学」をどんなつながりで構築していくか？
(北川学の内容、学び方・活動のあり方の確認、これからのあり方の検討)
(学びを深めていく上で、地域と連携していきたいこと、そばにあると助かるものは？)
→ これが、建築の複合化のアイデアや、空間構成の特性づくりの組み立てにつながる。
- 13 ◎発達段階にあわせた学びのあり方をどう考えていくか？
→ 低学年、高学年、中学校、エリアをどのような機能で構築するか？
それぞれの教室のありかたの空間的な条件を組み立てる。
- 14 ○少人数でしかできない教育の強みをどう考えていくか？(教育委員会の方針を受けて)
(個別学習の充実、複式的な学び、学びの乗り入れ、異年齢交流、発達段階ごとの寄り添い…)
(ICTを用いることで叶う、他校との連携、海外との連携、企業との連携の可能性)
- 15 ●中学校で教育のあり方をどう考えていくか？(小規模教科センター方式の導入の可能性)
→ 小規模だからこそ生かせる教科センター方式の構成、空間を組み立てる。
- 16 ○地域との連携のあり方をどう考えるか？
(学びで、生活で、行事で、どう関わり合っていくか？、学校側、地域側、双方から考える。)
→ 施設整備として、何を共用することができそうか、複合することが有益になりそうか
その検討と同時に、施設的な実現性を検討・検証する。
- 17 ○「北川学」の中での防災の位置づけをどう考えていくか？
(単なる防災という視点にとどまらず、地域特性・歴史からみた防災学を構築する。)
(これからの防災のあり方でも、地域・村民参加で考える、村全体の学びに展開できないか？)
→ その中で、財源的に無理のない、日常をいかした防災を考え、施設に展開させる。
- 18 ◎管理職内で：公務の一体化をどう考えるか？
(教員間での連携、つながりのあり方をどう考えるか？)
(それによって、職員室、教員の執務空間のあり方についての条件を組み立てる。)
- 19 ●複合化した場合の管理体制をどう考えるか？

■第1回 地域ワークショップ 運営内容

【テーマ】 未来につなげたい「北川村のたからもの」再発見！

【日時】 令和3年6月30日（水） 午後7時～午後8時30分

【参加者】 北川村地域の方、保護者の方

【場所】 北川小中学校 多目的ホール 31名（オンラインでの参加者あり）

【グループ構成】 6人ずつ程度（オンライン参加の方が別途）

【WSの趣旨】 北川村らしさ・これからへの思いを語り合い、共有し、
 保育園や学校づくりで生かしていく、村民皆さまの村への夢を集めます！
 第2回では、これらを大切にいかすためにできること、始めてみたいこと
 必要なもの、必要な場所、機能を考えていくワークショップを予定。

Step1 15分 ●情報提供

本事業について 担当：教育委員会
 ワークショップについて 担当：柳川
 進め方の説明

Step2 10分 ●班ごとに 自己紹介

名前、育ったところ、参加した理由

Step3 25分 ●その1「北川村のいいところ、再発見！」

5分 各自、記入

- ・北川村の好きなおところ、残したいこと
 （長所、場所、特徴、特色、地域ならではのもの、などなど）
- ・北川村の学校・保育園のよさ、つなげていきたいこと
 （長所、特徴、場所、もの、思い出、行事、などなど）

20分 班内で語り合ってみよう！（その1）

黄色カードの内容から
 ・書いた内容、なぜそう思ったか？ の発表
 ・その方の思い重ねて、感想、思い、イメージの広がりを

25分 ●その2「北川村の気になるところ、再共有！」

5分 各自、記入

- ・村や学校・保育園で、改善できたらな、と思うこと
- ・これから工夫していけたらいいな、と思うこと
- ・不安、気になること

20分 班内で語り合ってみよう！（その2）

緑色・白色カードの内容から
 ・書いた内容、なぜそう思ったか？ の発表
 ・その方の思い重ねて、感想、思い、イメージの広がりを

Step4 15分 ●全体共有

各班ごとに、まとめを発表

■6/30 第1回地域ワークショップ 意見まとめ資料

1. 大切なたからもの：モノ、トコロ、コト

1-1 ゆず

- 1 北川村の柚子
- 4 ゆず
- 2 ゆず（の取り組み）
- 1 北川村の好きなところ
 - どこに行っても柚子の木が見れる
- 2 日本一の柚子園
- 2 ゆずのおすしがおいしい
- 4 秋 ゆず収穫時の JAあたりの ゆずの香り

1-2 自然

- 2 自然
- 4 自然
- 1 豊かな自然
- 2 豊かな自然
- 6 豊かな自然があるところ
- 5 自然が豊かで景色が美しい
- 5 自然がたくさんあるところ
- 2 自然がいっぱい
- 1 美しい自然 山 川
- 5 豊かな自然 それを生かしたモネの庭
- 1 山 川 自然にあふれているところ ウォーキングしたら最高です。
- 6 汚れていない自然が当たり前のように豊かにある
- 2 山と海が近い
- 5 山も川もあって、海も近い。
- 3 川がある。海に近い
- 2 川で遊べる
- 5 川遊びスポット、ホテルのスポット 沢山！！
- 3 巻ノふち 川遊びができる環境

1-3 自然の恵みを感じられる「モネの庭」、北川温泉

- 1 モネの庭 フランスとの交流 外とつながろうとする心
- 1 モネの庭 モネのスイレン レストランのメニュー
- 2 モネの庭
- 4 モネの庭 北川温泉

1-4 自然からのたからもの：情報では伝わらない、感じてもらいたい魅力

- 4 自然と共に生きている（知恵・工夫）
- 5 のどかで、鳥の声がよく聞こえる。カエルとか。カブトムシも飛んでくる！ 自然が身近
- 4 豊かな自然
- 4 （ほうねんえびのいる田んぼ、お宮前の水路 どじょう）
- 4 実生のゆず
- 4 自然がいっぱい！！
- 4 ・秋の柚子 黄色くなる いいにおい ・田んぼの風景 ・川（カニ、あゆなど）
- 1 季節を常に感じられる！ ・山菜 ・鮎 ・梅仕事 ・田植え モネの庭 ・ゆず
- 4 夜がいい 季節を感じる
- 5 時間の流れがゆったりして、気持ちが落ち着く
- 5 自然がいっぱい。季節の音（虫、鳥、風）
- 5 においがあること（風、土、草、雨）
- 5 コロナでも蜜にならずに、自然遊びができる！

1-5 自然とともに生きてきた文化・産業遺産

- 2 森林鉄道がある
- 2 森林鉄道 遺こう
- 2 天然林（島の宮 木積の宮 馬路村 宗ノ上の5 km川上など）
- 2 まがいぶつ（4/8が北川村にある）

1-6 北川村の偉大な先人：中岡慎太郎先生

- 5 中岡慎太郎先生
- 1 中岡慎太郎の志
- 2 慎太郎（館）
- 1 木積焼 慎太郎窯 北川村の文化の拠点の一つだ（った）と本気で思う。

1-7 発信していきたいたからもの：コト（行事・活動・ヒト）

- 2 お弓祭 伝統
- 5 お弓祭り
- 2 地域ごとの行事
- 3 どんど焼き
- 2 地域行事をのこす 神祭（おみこし等）
- 4 お祭りが元気がなくなっている。昔はもっとにぎやかだった。
- 1 いろんな分野の達人がいる。
- 1 ・りんてつ ・ゆず ・田舎寿司 ・猟 ・木積焼き 漬物
- 2 地域の人の特技をいかした活動でいきいき

1-8 発信していきたいたからもの：モノ（特産物、食べ物、場所）

- 5 村全体がとても広い！！その場所その場所で特徴がある。
- 5 昔ながらのごはん ・田舎寿司 ・かんばもち ・野草
- 5 昔ながらのごはん ← 昔ながらの大切な事を失くさず、継承して行ってほしい。
- 1 もちつき 食べ物 柚子の入った物 ・魚 ・鹿 ・猪
- 1 ・おいしいラーメン ・卵 ・田舎ずし（サニーマートでいつも思う。）
- 1 ・食堂 ・ゆず ・給食
- 4 ・手つかずの自然
- 4 ・農家のポテンシャルの高さ
- 4 ・ゆず産業 ・ゆず以外にも生産物がたくさんある
- 4 ゆず以外 ・みょうが ・米 ・ブルーベリー ・わさび ・トマト ・ピーマン
農産物がたくさんある
- 5 ジビエ美味しい 山菜美味しい
- 5 ・自然 ・農業 ・温泉 ・食堂 ・かんばもち
- 1 道の駅みたいなどころがあれば、特産物などを買える。村外からもわざわざ来ると思う。
- 2 いろんなお店
- 5 北川村の農作物やジビエ、魚などを使った料理教室がほしい。

2. 大切なたからもの：ヒト

2-1 北川のこどもたちのいいところ・素敵などころ

- 2 子供
- 4 北川村の子供 人なつこい所 幸せそうな顔
- 2 素直で元気な子ども達
- 1 素直な子が多い 協力し合える
- 5 小中学校の生徒たちの素朴なところをのばしてやってほしい。
- 3 子供たちが真面目で一生懸命
- 1 子どもたち割とまじめ。協力し合う。（高校で北川の子がほめられることがよくある。）
- 6 都会の子たちが忘れてしまった素直さ、子どもらしさ

2-2 郷土愛が深い子どもたち、学校の取り組み

- 1 小中学生が北川村に愛着をもっている。
- 2 子どもたち 村のことが大好き
- 1 北川村の学校のよさ
- 1 地域学習に力をいれているところ。他にこんな学校ないのでは？
- 3 子どもたちが北川村が好き 北川愛が強い！！
- 3 子供達が北川村のこと（ゆずや中岡慎太郎など）をよく学んでいて誇りに思っている。
- 3 子供達と地域の人々の交流があり、地域で見守られていて、安心する。
- 2 小中のこども 地域のために活動（小中）

2-3 地域の人たちのいいところ・素敵なおところ

- 5 人 みんな優しい おだやかで…
- 5 県外に長くいて帰って来た時にも、ふつうに自然にあたたかく
迎え入れてもらったちうような人と人とのつながり
- 2 ジイさん バアさんが多い
- 3 おばちゃんのやさしいところ でもいざという時消極的になるところがある
- 3 地域の人たちが優しい。よく関わってくれる。
- 5 あたり前に知らない人同士でもあいさつしている
- 1 やさしい人柄 助け合い
- 4 人がいい。助け合いの心がある。
- 5 人同士の助け合いが多いし、素直な人柄
- 5 車がパンクしてもみんなが助けてくれる
- 2 村のためにがんばっている方 多い 個人 村 etc
- 6 顔の見えるコミュニティの大きさ→子どもたちが安心して暮らせそう
- 6 安心して暮らせるところです
- 6 安心感 村に帰ってくるとホッとしています。
- 5 全員の顔がわかる
- 3 地域住民同士の距離の近さ
- 2 近所づきあいがある

2-4 学校・保育所で大切にしていきたい 姿・取り組み・行事

- 6 「楽しい！っていえる学校が素敵ですね！
- 6 学校が楽しいヒケツ ずっと一緒にいる時間が長くいろいろ乗り越え、家族のような関係に
- 6 「人間関係」この村で経験できる財産
- 3 保育所 体験が多い
- 3 保育所 食育がしっかりしている
- 3 保育から学校へのつながりが手厚い
- 5 いくつになっても続いている保育園の先生方とのつながり
- 2 あいさつ
- 2 こどもがあいさつできる
- 5 子供たちみんなアイサツができる！ビックリしました。
- 2 なぜか北川の子は水泳が得意
- 2 そうじ◎
- 4 学校 ・ランチルーム給食 ・手話
- 1 皆で食べる給食を続けて行きたい。(昔からだった)
- 1 上級生がお茶の用意をし、お世話する。上級生意識が育つ
- 2 手話 人権の学習
- 2 手話の取り組み

2-5 学校・村 みんなで大切にしていきたい、取り組んでいきたいこと

- 1 運動会 保・小・中と村民 一緒にすれば
- 2 運動会を村民運動会と一緒にやったらにぎやかでいいと思う
- 2 運動会での全学年の親子競技
- 6 机上の学習より、身体で体験できる学びが増えたらいいな
- 2 学校行事に保護者地域の協力
- 1 子どもたち（北川小中・みどり保育所）
- 1 村の人々がいつも見守ってくれている 協力して下さる
- 3 子どもがあいさつしてくれるようになった。
- 3 子どもたちの歌声が聞こえてきてよかった
- 1 気になること…？
- 1 村の子どもたちは良い子すぎて、村から出たときつぶされないだろうか…。

3. 【学校】これから取り組んでほしいこと

3-1 【課題】少人数な学校である状況に対して

- 4 学校、保育所
- 4 少人数なのでみんなの名前を知っている みんなの良いところをしっている。
- 3 人数が少ないからこそ縦の関係がすごくいい！！（学校）
- 1 少ない子供の数（きめ細かいよさ）
- 5 子供の人数が少ないことで、一人一人に目がいき届きやすい。みんな知っている。
- 3 子供が少なすぎる。（友だちとのかかわり 不安！！）
- 1 人数がすくないことのメリットもあるが、競い合いや互いに高め合う面では△
- 1 外に出るとおとなしくなって、話さなくなると聞いた。
- 1 社会へ出た時の団体生活（子供が少ないので）
- 3 子どもの人数が少ないので友だちと一緒に体験することが少ない
- 5 子供に色々経験をさせたくても、その環境がない。（部活とか）
- 1 学年によって子供がいなくなる事
- 4 子どもが減っている。 学年10人いない
- 4 子どもの数が年々減少してきている
- 5 どんどん子どもが減っているので、このままで成り立っていくのかどうか心配…。
- 2 子どもが少なくなったら、施設等もいらなくなる

◎できるだけ、施設をまとめ「一体化」させる工夫を！

- 3 保小中、役場など近くにそろっている。
- 1 小中と校舎が別々。
- 1 保・小・中と同じエリア（移動するときもカサがいらぬい）だったらいいと思う。
- 4 学校 保育所 介護施設 点在している → まとめて！！

◎多くの社会の人とつながれる環境づくりを！

- 1 子供の意欲や興味を引き出せる大人や教育関係者の熱意
- 2 社会とつながってたくましくなれるといい
- 2 地域の人・もの・ことについて、もっと知りたい
・コーディネーターがいるといい（学校と地域） ・資料
- 6 幸せに生きている大人を見ながら、子どもたちは夢をもつと思う
- 6 こどもたちのよりよい環境のため みんなが協力することが必要

◎村の大人たちが、こどもたち・教育に関わりやすくなれる 情報発信の工夫

- 2 学校行事をもっと地域に発信したらいいと思う。回覧板とかで（今はコロナで出来ないが）
- 5 広報が家に配られること。
（今は休止中ですが）英会話教室など「やっているよ！」ということをもっと宣伝してほしい。伝わりきれていない。
- 1

4. 【地域】学校とともに取り組みたいこと

◎様々な仕事・生き方を学んでもらいたい

- 4 ・北川村で働いて家庭をもてるようになるための基盤づくり
（農業体験とかイベントを毎年行って、一次産業に興味を持ってもらう。）の
- 4 残したい事 ・ゆずを中心とした第一次産業
- 4 ・「北川村」という名前を広めるための存在
- 6 将来の生き方の夢を持てる学びを取り入れられたら 夢があれば、やる気スイッチが入る！
- 6 大人がチャレンジする村 子どもたちにも夢を
- 4 子ども達に農業体験をたくさんして欲しい。ゆず、お米など 一連の農業体験を！！
- 4 学校教育の現場で農業体験のカリキュラムを入れていく
（例）1年生でつぎ木をうえる → 6年生柚子の収穫など
ポテンシャルの高い農家さんの指導をけてみる
- 4 北川村にあるいろいろな仕事 モネ、温泉、建設 etc…
- 4 学校の時代にいろいろな職業体験をする
- 4 Uターンしてくれるような工夫
- 4 働くところがある。（産業）
- 4 住むところがある。
- 4 家をたてる。（土地）

◎地域と子どもたちの「ふれあいの場」づくり

- 2 子どもたちとふれあう機会と場所を
- 5 地域の人々と、学校・子供達とのかかわりを多様に
- 5 住民と子供達（学校）のオープンな関係。共に楽しめること。
- 5 直接行かずとも、子供と地域の人がデジタルで交流できたら（子供達が教える役で）
- 3 小さい子供達が近所にいないので、若い人のことがあまり分からない。
- 3 通学・帰宅の買食（買い物）禁止がなくなったらいい。

◎スポーツの場

- 1 スポーツが少ない 部活動の選択肢が少ないこと
- 2 ソフトボール

5. 【地域】地域として取り組んでみたいこと

5-1 【課題】村を守っていきたい、いきいき暮らしたい

- 2 思い出の場所（北川の人）
- 2 活気を取り戻したい

◎「子どもたちのが集える場」づくり：子どもたちの一体感をつくる

- 3 子どもたちがあつまれる場所
- 3 小学生、中学生が集えるようになれば

◎「子どもたち、子ども連れが集まれる場」としての「公園」

- 2 遊び場
- 1 公園がない!!! モネの庭は住民の公園ではない。子どもたちが気軽に集まれる場所がない?
- 1 安全安心な川あそびができるところが実は…ない。自然はあふれているのに。
- 5 自然が多くて、安全な公園がない!! 絶対欲しい!!
- 1 自然の中で遊ぶ余裕 大人も子供も

◎みんながふれあえる場所

- 3 北川村のいろいろすごい方がたくさんおられる思うので、
いろんな交流を持てたらいいなと思う。
- 2 様々な世代の交流（場）
- 3 どなたかつないでくれる人が居たらよと思っていましたが、
自分からいかないといかんと思った!でもやっぱりハズカシイ。
- 3 施設のことなんかはわからない。私が生きている内に作ってほしい。
大いにでかけてゆきます。
- 5 地域間の交流が以外と少ない薄い

◎みんなが集まれる場としての「図書館」

- 1 休みの日にこどもが利用できる図書館・公園があればいいな。
- 5 もっと大きい図書館がほしい。
- 5 知識欲が深まる施設。文化的な場所があったらいい。
- 6 大人も子どももワクワクドキドキ村の未来を描ける場所、つくりたいですね

5-2 【課題】子どもが少ない、子どもを増やしたい

- 2 子どもが少ない 子どもが少なくなる
- 5 子供の人数が減っている。
- 3 子どもの人数が減ってきているので、もう少し増やしたい。
- 2 子どもが増えるといいな
- 5 やっぱり子どもが多くなってほしい。

5-3 【課題】若い人が少ない、若い人を増やしたい

- 2 子供達が少ない。(若者を増す)
- 5 若人が少ない → 生徒数の確保がむずかしい
- 5 若人が少ない。
- 1 子育てヨシ!お年寄りも安心。しかし、若い人にとって魅力はあるのか?

◎若い人が集まれる場所、出会いの場

- 3 若い人の集まる広場がない 気の毒
- 3 若い人体を動かせる場所がほしい
- 5 若者が集まって出会う場がない。
- 4 女性も男性も独身の移住者を探す!! そこで出会い♡があれば…
- 5 ちょっとおせっかいな仲人さん

◎若い家族を支える仕組み

- 2 家族手当を増す
- 2 18才まで村が見る 生めやふやせがんばって

◎移住してもらえる「情報発信」

- 3 子育てにはとても良い環境だと思うので、そこをもっとアピールして人が集まってくるといいなと思う。
- 5 村の素晴らしさを沢山の人に知ってもらおうツールがあまりない。
- 1 村外の人にすぐ伝わる要素がいくつもある。
・中岡慎太郎 ・ゆず ・モネの庭 など

◎立地のよさを生かす

- 1 県内中心地からめっちゃめっちゃ遠いわけではない。
(だから高知市・南国市まで通学する高校生が結構いるかも。)
- 1 生活するのに便利 銀行、役場、お店、学校、コンパクトに集まっている
国道に近いので便利
- 3 どこでも車で行けて便利(駐車場も完備)
- 3 飛行場が近い わりと交通が便利
- 5 わりと田舎!! だけど住んでみたら、それなりに不便なく生活できるところ。
- 5 北川村には信号機がない(住民のマナーがよい)

◎そのための道路整備の大切さ

- 1 夜の町の中 通り 学校の外が街灯がなくてこわいので、明るくなればいいなと思う。
- 2 道路がほしい
- 5 道路がくずれる事が多い

5-4 【課題】産業の活性化、仕事がみえにくい

- 4 仕事がかざられる。
- 5 仕事が少ない。
- 2 仕事場。仕事がない

◎移住者を増やすための産業支援

- 2 自分の好きな事業ができる
- 5 人がこの村の内で仕事をもって安心して暮らせることで、新しい若者も増える
- 2 企業誘致等をしたら、人口も増えると思う（柚子だけじゃ難しい）
- 4 サラリーマン農家を探す
産業の現実と教育の現場のカベを取り払って、移住者をもっと呼び込む
- 4 キャンペーンを打ち出すべき
子供を増やすには移住者を増やすことだと思う。
- 4 人口が下がりつづけている。→特徴を生かし切れていないのでは？
- 4 子どもが少ない。→ 柚子や自然を通じた体験で交流 → あわよくば移住してもらおう

◎移住のための住環境整備

- 1 移住したい人、移住した人が、なかなか住むところが決まらず途方にくれた。
受け入れ体制の強化を！
- 2 空き家をどうする
- 4 住む家がなかなかない。
- 5 住める空き家が、家がない。移住希望者がいるのに、住む所がない。
- 5 空き家が少ない。家を書いたくても見つからない…。